

平成 17 年 12 月 12 日

金沢大学教育開発・支援センター主催

第 2 回専門分野別教育開発セミナー「文系基礎とコア・カリキュラム」

報告 菊沢正裕

- 1 日時 平成 17 年 12 月 11 日（日） 13:30～17:40
- 2 場所 金沢大学サテライト・プラザ（金沢市西町3番丁 16 番地）
- 3 内容とコメント

本学にも教務委員長、FD委員長宛に案内があり、金沢大学サテライトキャンパスにて、学部横断で教育について議論するセミナー（参加者約50名）に参加した。本学の中期目標0次案の「教育の成果・内容に関する目標」に掲げていた、「基礎的能力」「観点」と、それを達成するためのコア・カリキュラムは、大変重要な課題であることを基調講演で確認できた。

13:30-13:40 開会の辞（金沢大学教育担当理事・鹿野勝彦副学長） この5年にわたり検討してきた共通教育、それにとまなう学部から学域への改変（学生組織の改変）に言及し、今後、講座制など教員組織の改変が進むであろうことなどに言及された。

13:40-14:40 基調講演 「学士課程カリキュラムの在り方：専攻を超えて」（神戸大学教育研究センター川嶋太津夫教授）では、いま大学は研究から教育課程を考える時代、教育課程の再編は、講座制や教員組織をも変えることになる。21世紀型の授業は、教員中心から学生参画の授業、知識伝授から知識をどのように獲得し使うかを教える授業が大切になる。インプットからアウトカムへ、また専門教育から専門をどのように汎用化するかの教育への移行が必要である。高等教育とはなにかを問い直し、就職先の多様化と転職や学問の変化（知識の急増、文化、陳腐化）を踏まえてカリキュラムを再構築しなければならない。個々の授業を受講した学生のアウトカムを見据えたカリキュラム、教育上の達成目標を掲げ、それぞれの目標がどの授業で達成されたかを証明できるカリキュラムが、いま世界的スケールで求められている。また、金沢大学での2年間の授業が、その後の富山大学での2年間、さらに北京大学大学院の2年間に、といった具合に引き継いでいくことができる、そのようなカリキュラムが求められている。

14:50-15:40 「専門共通科目と文学部教育」（金沢大学文学部鏡味治也教授）では、3学科16コースの共通教育として実施してきた、導入教育、コースをまたがる特定研究分野の教育（現代日本の文化と社会、日本人の思想と文化など）、学部共通の実習科目（インターンシップ、語学留学、地域交流演習を単位化）、教員配置と専門分野のズレを補正する教育、について説明。続いて、金沢大学の学部再編（法、文、経済の3学部を、人間社会学域に統合）に向けた議論を行った。

15:40-16:30 「導入教育としての法学概論」（金沢大学法学部東川浩二助教授）では、多岐にわたる法学の専門分野を横断する法学概論（専門科目）では、「タバコについて」といった身近なテーマをとりあげ、他学部が受講する教養科目では、「裁判員制度と陪審員制度」のテーマを取り上げる。専門と教養が一見、逆転している講義内容であるが、このことが非常に重要として、このセッションでも、またディスカッションでも大いに議論が盛り上がった。

16:40-17:40 ディスカッションでは、コア・カリキュラムはどうあるべきか、4年間をみずえたコア・カリキュラム、一般教育と専門教育のコア・カリキュラムを分けるかどうか、科目名の統一（「概論」と「入門」の違いを明確に）、学内の科目の分野と水準を整理（類似科目の洗い出し）の整理、法学概論に関する続き、などなど、学部再編にむけて、学部間の違いを乗り越える活発な議論が、ホットな雰囲気の中かで続いた。